

にいがた労福協

ライフサポートセンター

No.52 2023年1月15日発行

一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2

Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891

E-mail ni-rfk@bz04.plala.or.jp

URL <http://www.niigataken-rofukukyo.com/>

発行責任者 岡 英輔

2023年 明けましておめでとうございます

「福祉はひとつ」

～すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、
連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくります～

23年 新潟県労福協 新春の



齋藤副理事長による乾杯

理事長	副理事長	副理事長	専務理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	
牧野 茂夫	齋藤 敏明	小野塚 豊	間 英輔	登坂 崇規	飛田 博之	山崎 雅彦	小熊 勇	小林 俊夫	鶴巻 洋介	佐藤 浩	齋藤 由宣	中川 亨	小林 佳代	川原 隆哲	高見 優	川崎 晃	矢島 良彦	笹井 智規	桑原 典子	長谷川建雄	玉木 豊	江口 勉	佐藤 淳	渡辺 薫
連合新潟	労働金庫	こくみん共済	労福協	自治労	U-Aセンセン	電機連合	交通労連	連合新潟	労働金庫	こくみん共済	退職者連合	ろうきん財団	県生協連	ワークスコープ	さくえあい生協	新潟地区	長岡地区	柏崎地区	連合新潟	労働金庫	こくみん共済	労働金庫	労福協	労福協

2023年、今年も
よろしく願います。

「連帯・協同でつくる、 安心・共生の福祉社会」に向けて



新潟県労福協

理事長 牧野 茂夫

あけましておめでとうございます。

昨年は、コロナ禍による社会・経済活動の制約が長引く中、ロシアのウクライナ侵攻で拍車がかかる資源・エネルギー価格の上昇、諸外国との金融政策の差などによる円安が私たちの生活を直撃しました。

コロナ禍によって顕在化した貧困と格差の拡大や分断、情報リテラシーの格差による制度享受の不平等は、コロナ禍以前から生じていた問題であり、本来もっと早く手をつけておくべき課題でした。日本社会の活力を低下させないためにも、困難を抱えた人たちへの支援は、社会全体で支えていくべきであり、現行の公的セーフティネットの改善を求めていくとともに、必要な

人に必要な支援が届く社会への変革が求められます。

また、新潟県労福協が県内約1,700の労働組合などの団体に要請しました、(公財)新潟ろうきん福祉財団の高校奨学金事業拡充に係る寄付の取り組みは、現在も継続中ではありますが、多額のご寄付を頂き、ろうきん福祉財団として4月より毎年100人(各学年100人へ月額1万円の奨学金支給が10年程度)採用枠を拡充することが可能であるとの見込みです。あらためて感謝申し上げます。

新潟県労福協は、「誰一人取り残さない社会」と気概を持ち、あらゆるものに柔軟に対応し、共助の輪の拡大を図り、ポストコロナ社会に向けての労働者自主福祉活動を力強くすすめます。

県内で働き、暮らす多くの人の支えとなる労福協運動!「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向け、皆さんと力を合わせ、取り組みをすすめて参りますので、本年もどうぞよろしく願いいたします。

2023年 年頭挨拶



労働者福祉中央協議会

会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大による経済・社会・国民生活への影響は現在も続いています。世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻による平和問題や物価上昇、気候危機など、先行き不透明な状況に置かれています。一人ひとりが意識を変え、小さなことでも行動に移していくことが必要です。「誰ひとり取り残さない」包摂的で持続可能な社会を実現するために、取り組みを進めていきましょう。

私たちは今、目まぐるしく状況が変

化する社会の中で、様々な課題への対応に迫られています。これまでの運動で培ってきた経験や、助け合い、支えあいの精神を糧に、時代に即した運動スタイルを取り入れてポストコロナ社会を見据えた運動に取り組んでいかなければなりません。

「2030年ビジョン」の実現に向けて、労福協、労働団体、福祉事業団体がこれまで以上に連携を深め、一丸となって取り組みを進めていきましょう。



2023年新潟県労福協

新春の集い

穏やかな新春を迎え、2023年1月5日(木)、ANAクラウンプラザホテル新潟において、県労福協主催の「2023年新潟県労福協新春の集い」が、各界から177名の参加で盛況に開催された。

本年の集いは、1部・2部制で開催し、第1部は、県労福協・桑原監事の進行で新年にふさわしい曲目を中心に「トロントリオミニコンサート」(ヴァイオリン・チェロ・箏)、「チビユニティ」ダンスパフォーマンスを披露していただいた。

第2部は、主催者牧野理事長の年頭あいさつ後、来賓を代表して、花角新潟県知事(鳥インフルエンザが発生し、急遽欠席となり、メッセージ)、朝妻新潟市副市長から新年のご挨拶を頂いた。

その後、齋藤副理事長の乾杯で新春の集いがスタートし、行政の関係者やNPO団体など、この間の活動により労福協運動のウイングの拡がりを感じさせる集いとなった。

新型コロナウイルス感染症対策を行いテーブル内での交流となったが、時間の経過とともに、アルコールの力も借り、参加者の懇親を深め、最後は、小野塚副



牧野理事長



理事長の「締め」により、成功裏に「2023年新潟県労福協新春の集い」の幕を閉じた。



トロントリオ



朝妻新潟市副市長



小野塚副理事長



チビユニティ

花角県知事要請行動

「2023年度（令和5年度）労働者福祉に関する要請書」に基づく申し入れ

11月8日（火）県労福協は、花角知事を訪問し労働者福祉に関する要請書を提出した。

要請内容は、①東日本大震災の被災者・避難者の支援について、②格差・貧困社会の是正、セーフティーネットの強化について、③奨学金制度の拡充・改善と教育費の負担軽減について、④フードバンク活動の促進について、⑤持続可能な地域公共交通機関の確保について、⑥労働者協同組合法の施行の運用についての具体的対応についての6項目であった。

重点的に、3項目について要請した。



① 奨学金関連では、奨学金ネットワークの設立経過や、この間の中央労福協・県労福協の奨学金に関する電話相談等の取り組み、11月20日開催予定の給付型奨学金シンポジウムの開催経緯、県労福協が現在取り組んでいる「高校生奨学金事業拡充に係る寄付取り組み」について。

② フードバンク活動では、予算措置されている「新潟県フードバンク設備支援事業補助金」の有効活用に向けた対応と県職員のボランティア休

暇を活用した支援体制の構築について。

③ 労働者協同組合法関連では、労協法施行後の各地における具体的な動向、県が主導しての窓口の設置や来年度予算措置に対する要望等について。

花角知事からは、「労福協には、労働者福祉向上や厳しい生活環境に置かれた方への支援に関わる取り組みなどに尽力頂き感謝申し上げます。来年度予算編成作業を進めるにあたって、要請内容をしっかりと聞かせていただいて、

給付型奨学金シンポジウム

〜どの子どもたちにも夢と希望を〜

11月20日（日）新潟県立生涯学習推進センター大ホールにおいて、「給付型奨学金シンポジウム」を60名の参加で開催した。

江花史郎実行委員長（新潟県奨学金ネットワーク代表）から『家庭の経済的な事情を理由に「学ぶ機会」を失わせてはいけない、新潟県で生まれ育った、未来の子どもたちの力になる取り組みを進める』との挨拶を受け、花角新潟県知事からは、シンポジウムに対する期待を込めた激励の挨拶を頂いた。記念講演は、小林雅之氏（桜美林大学教授）から、「学生への経済的支援

どのような形で反映できるか実質的に検討したい」との前向きな回答があった。

―出席者―

新潟県・花角知事、金井産業労働部長、土田しごと定住促進課長、前田大学・私学振興課長、澁谷福祉保健総務課長、渡辺食品・流通課長、市野高等学校教育課長

労福協・牧野理事長、齋藤副理事長、小野塚副理事長、川原理事（ワーカーズコープ本部長）、間専務理事

の新展開」と題して、

○学生への経済的支援（学生支援）とは

○学生支援の根拠・教育費の公的負担根拠

○日本における学生支援制度

・2017年度以前

・2017年度 2つの新制度

・2020年度 大学修学支援法

（修学支援新制度）

・岸田政権下の学生支援政策

○情報ギャップの問題 高卒者保護調査と全国高校調査から

○学生支援の課題



【江花実行委員長挨拶】

について丁寧な説明があった。
新潟県内の状況報告では、中村健氏（新潟大学准教授）から、「健康で文化的な最低限度の生活」生活保護制度の課題を中心に、①貧困とは、②生存権とは、③生活保護の動向、④新潟県内の状況、⑤生活保護と進学、について報告され、「全ての子どもが生まれ育つ家庭の経済状況に左右されずに、希望する進路に進むことができていくのか」と鋭い指摘がなされた。

各団体からの報告では、①新潟県教育庁高等学校教育課副参事 阿部智彦氏、②新潟県経済部雇用・暮らし推進課主査 田中秀樹氏、③（公財）丸山育英会事務局長 富井敏氏、④（公財）第四北越奨学会事務局 吉田詢子氏、（一財）未来応援奨学金にいがた副理事長 土田雅穂氏、⑥（一社）新潟県労働者福祉協議会専務理事 間英



【小林教授講演】

輔、から、各行政・団体が取り組んでいる奨学金助成の取り組み状況について、各団体10分という時間設定の中で説明して頂いた。

最後に小林教授によるまとめ。①日本の奨学金制度は、家計支援と成績重視のダブルマインドである。他国はどちらかのみである。②日本は圧倒的な親負担だが、世界はそうならない。公的負担など様々な負担があり、官民の役割負担が必要と指摘。③この取り組みのように奨学金団体をつなぐ、ネットワークの取り組みは重要である。

最後のまとめは、ネットワーク活動に取り組んでいる私たちにとってありがたく、うれしい言葉であった。

なお、小林教授の講演は、県労福協TV(YouTube)にアップしたので、視聴願う。

あけまして おめでとうございます



2023年4月1日から

月60時間を超える時間外労働の割増賃金が引き上げられます

中小企業の月60時間越えの時間外労働に対する割増賃金率が50%になります

※大企業は2010年4月から適用



連合新潟 (日本労働組合総連合会新潟県連合会)

〒950-8558新潟市中央区新光町6-2勤労福祉会館3階 TEL:025-281-7555



高校奨学金事業拡充に係る寄付取り組み状況の記者会見

寄付総額（11月末現在）

378,637,517円

12月21日（水）県庁記者クラブの会見場にて「新潟県労福協による新潟ろうきん福祉財団の高校奨学金事業に係る寄付の取り組み状況および2023年度高校生奨学金（給付型）募集の概要」について、県労福協・牧野茂夫理事長、ろうきん福祉財団・齋藤敏明理事長の両者が記者会見を行った。

牧野理事長から、労福協からの要請に対して、11月末現在で、件数で1,102件、金額で378,637,517円の寄付を頂いたとの説明があり、ろうきん福祉財団・齋藤理事長からは、2023年度から新1年生100人に対し月1万円の奨学金を支給することの説明がなされた。

（2013年から2022年まで、30人を対象として実施）

記者からは、①労福協関わった理由、②寄付募集の経緯、③募集枠や収入額の根拠などについて質問があり、両理事長から丁寧に説明がなされた。齋藤理事長から、「遠慮しないで申し込んでほしい。多くの人にこの取り組みが伝わるように取り組んでいきたい」とのコメントがなされた。



コープデリにいがた

「あなたらしさ」が選べる生協、コープデリです。

コープデリは、関東・信越1都7県で335万以上の世帯にご登録いただいている、日本最大の生協です。たくさんの宅配サービスや生協があるなかで支持されている理由はきっと、それぞれの“ぴったり”が見つかるから。原料へのこだわり、価格帯、家族の人数、etc… どんなニーズもおまかせください。

コープデリなら、つかうほどじぶんらしくなれるあれこれが
選べる、見つかる。



コープデリが大切にしている6つのこと



豊かで楽しい
食卓へ。

ふだんのくらしに必要な
商品を提供し、
毎日のくらしに貢献します。



安心して
家族へ。

提供する全ての食品の
安全性の確保に
取り組みます。



声を
かたちに。

組合員さんの声を
大切にしたコープ商品を
開発・提供します。



つながり、
育む。

生産者と組合員さんを
つなぐ「産直」に
取り組みます。



「食べる」を
伝える。

食育「たべる、たいせつ」を
通じて食による健康な暮らしを
提案していきます。



未来に
つなげる。

環境にやさしい
事業とくらしを目指します。

ご加入手続きは
簡単！

今すぐ！ Webでお申し込み

コープデリ 加入 検索



こちらからも
アクセスできます

2022にいがたワーク&ライフフォーラムin柏崎 「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向けて」

10月23日(日)、柏崎市「新潟工科大学」において、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会の実現に向けてをメインテーマに掲げ、ろうきん福祉財団と県労福協の連携した事業として、9回目となる「2022にいがたワーク&ライフフォーラムin柏崎」を開催した。

フォーラムには、県下各地から235名が参加した。午前の全体集会では、記念講演として「地域で命を支える」健康づくり・絆・助け合いを考える」と題した医師で作家の鎌田實氏の話に耳を傾けた。東京医科大学医学部卒業後、諏訪中央病院に赴任して30代で院長となり、潰れかけた病院を再生させ、「地域包括ケア」の

【記念講演 鎌田實氏】



先駆けを作り、長野県を長寿で医療費の安い地域へと結び付けた事例の報告。また、1991年より、チェルノブイリ原発事故の放射能汚染地域へ100回を超える医師団を派遣し、約14億円の医療品を支援。2022年3月現在の医療品を支援。2022年3月現在の医療品を支援。2022年3月現在の医療品を支援。

講演の中では、健康づくりに関する具体的な食生活でのポイントや、ストレッチの重要性、「パタカラ発声」(唇・舌・ノドの奥・口全体)など、ユーモアを含めた貴重な講演を頂いた。

午後からは、8つのセッション、2カ所の現地訪問など、創意工夫した取り組みが行われた。

セッションでは、①映画「医師中村哲の仕事・働くということ」上映と対談(にいがた協同ネット)、②ろう・難聴(聴覚障害)を持つ仲間に「伝える」ヒントを学ぼう(連合新潟)、③シルバーふれあいサロンやまゆり、④無意識の偏見、思い込みって? アンコンシャス・バイアスをクロスロードゲームで知ろう(ダイバーシティ編)(NPO法人a i s a、RあんどH)、⑤「労働者福祉と難病患者団体とのかわり」(全国膠原病友の会栃木県支部・

玉木支部長を招いて(県労福協)、⑥子どもも私も幸せになるために(今できること)(新潟県労働金庫)、⑦5分100円の「御用聞き」から見えた地域の課題(柏崎ポーターズの取り組み)(NPO法人a i s a、柏崎ポーターズ)、⑧無意識の偏見、思い込みって? バイアスをクロスロードゲームで知ろう(防災編)(NPO法人a i s a、RあんどH)。

現地訪問コースでは、A…高柳町石黒コース、B…西山町石地・椎谷コース、が開催された。

コロナ禍の影響を受け、交流会は中止となったが、各セッションとも有意義な内容での開催となり、参加者の交流も深まる取り組みとなった。

なお、玉木朝子氏の講演内容は、新潟県労福協TV(YouTube)にアップしたので視聴願う。

【セッション5 労働者福祉と難病患者団体とのかわり】玉木朝子氏



労働組合等にご加入の方へ

金利上昇局面の中!「ろうきん」はあえて!

あんしん住宅ローン

金利引下げ!!

変動金利

年0.9% → **年0.85%**

全期間固定金利型

年1.75% → **年1.55%**

期間限定 2022年9月1日~3月31日

金利引下げ

新潟ろうきん

【あんしん住宅ローン商品概要】●ご融資金額/最高1億円 ●返済期間/最長40年(全期間固定金利型の場合は最長35年) ●お支払い/新築・増改築・土地購入、他金融機関からの住宅ローンの借換え等。●担保/土地・建物 ●申込手数料/無料(※労働組合等に加入されていない方が100万円以上のお申込をされる場合は申込手数料55,000円(税込)が必要となります。) ●保険/団体信用生命保険付き(※夫婦が連帯債務者である場合、ご融資金利に年0.1%上乗せで、夫婦連帯団体信用生命保険をお選びいただけます) ●保証/保証機関の保証 保証料はろうきん食卓(※労働組合等にご加入されていない方がお申込をされる場合は別途、保証料が必要となります。)

※利息となる労働組合等について詳しくはお問い合わせください。●金利適用条件・保証料は、金利優待等により見直しする場合があります。●審査結果により、ご希望に添えない場合があります。●保証人等にご同意いただくことにより、ご利用いただける場合があります。●労働組合等にご加入されていない方は金利が異なります。●前掲またはホームページで最新情報の閲覧をお願いします。●詳しくは店頭で説明書をご覧願います。●表示金利は2022年9月1日現在

第3回

地区労福協事務局長会議

10月25日（火）第3回地区労福協事務局長会議を事務局も含め16名で開催した。昨年の10月1日から地区労福協の新たな体制が確立され、1年を経過した中で県下10地区の事務局長による会議となった。

会議の目的は、今後の地区労福協活動の充実強化に向け、どのようなスタンスで臨むのか、地区労福協の実態を踏まえつつも、県ライフサポートセンター事業の全県的な取り組みや、各地区での取り組みなど報告を中心として意見交換を行った。

今後は、県労福協が取り組む各種活



動を地区労福協なりに前年度以上に創意工夫し活動を進め、地区労福協の活動の活性化こそが、県労福協の取り組み

連合新潟第32回年次大会

「命とくらしを守ることをすべての
基軸に、未来を切り拓こう！」
顔の見える地域運動を発展させ、
新たな組織拡大に繋げよう！」

10月28日（金）連合新潟は第32回年次大会を、新潟市・新潟東映ホテルにおいて開催し、代議員・役員など102名が出席した。

牧野会長は、「誰もが安心して暮らすためには人への投資、大幅な賃上げ



みの活動強化に直結することを、会議参加者全員で確認した。

が必要である。連合新潟の組織人員は減少傾向にあるが、全ての職場で仲間をつくらなければならない。来年の定期大会を純増で迎えるため一枚岩で活動を展開したい。来春の統一地方選挙は、最大のチャンスであり、推薦議員

第32回新潟県勤労者駅伝大会

32チーム 総勢310名が参加

11月3日（木）、新型コロナウイルスの影響により3年振りに、連合新潟・労福協主催の第32回新潟県勤労者駅伝大会が新潟市デンカビッグスワンスタジアムをスタート・フィニッシュとし新潟県スポーツ公園内コース（6区間18.4km）で開催された。

参加チームは32チーム（選手・スタッフ総員310名）で前回より29

を増やして地方から働いてもらう」との挨拶があった。

年次大会は、中間年であるが、①2023年度活動に関する件、②2023年度財政に関する件など、労働条件の改善などに向けた方針を決定した。

また、代議員からは、自治労厚生連労組から組織内における組合活動の現状の報告、下越地域協議会から、県北豪雨災害ボランティア活動に対するお礼の発言があった。

役員交代では、長年連合新潟執行委員、また、地区労福協事務局長として活動を展開していただいた、小林守氏（中越地協）、川崎晃氏（新潟地協）が退任し、新たに横沢勝之氏（中越地協）が就任した。

チーム減少したが、県下各地から日頃、鍛えた健脚を競う熱いレースが繰り広げられた。

大会は、牧野大会実行委員長（連合新潟会長）の主催者挨拶に続き、来賓として、新潟県産業労働部しごと定住促進課土田課長の祝辞の後、「コロナアスリートクラブ」の霜鳥さんが選手宣誓を行った。

今大会も前回に続き、全国実業団対抗駅伝大会の出場経験もある、走る大工集団「重川材木店陸上部」がゲスト参戦していただいた。

一本の「タスキ」をつなぐ駅伝、タスキには目に見えない「絆」や「支え合い」が込められ、まさに働く者の団結と連帯を確認できるものとなった。

これからもアスリートから初心者まで、誰もが自由に気軽に参加しやすい大会をめざし「タスキ」をつないでいく。

競技結果は以下のとおり

〈総合順位〉

1 位 J P 労組チーム A

1時間02分35秒

2 位 十日町地域広域事務組合

1時間07分55秒

3 位 コロナアスリートクラブ

1時間10分27秒



〈男女混合順位〉

(女性2名以上が実走したチーム)

1 位 十日町市Aチーム

1時間16分05秒

2 位 にこにこランニングクラブ

1時間17分13秒

3 位 津南町役場A

1時間19分30秒



地域づくりセミナーin新潟

助成金終了後も事業継続するためには

11月29日(火)、「地域づくりセミナーin新潟」が新潟東映ホテルにおいて開催された。

新潟ろうきん福祉財団が主催する本セミナーは、「自立した地域社会創造助成事業」の成果報告会の一環として2013年から開催されてきた。今回はコロナ禍で突然の欠席者が若干名あったものの44名を集めた集会となった。

また今回は従来の成果報告と併せ参加者が小グループで話し合う「地域円



卓会議」を実施。「助成金が終了しても事業を継続していくためには、何が必要か。そのためにろうきん財団ができること」をテーマに意見を出し合った。「自治体助成制度の情報を提供、コーディネートする機能を期待する」「助成制度が終了しても自立する意欲が維持できる支援制度を検討してほしい」など具体的に切実な声が多く出された。

取りまとめに立った中川専務理事は「事務局だけでは考えつかないアイデアをいただいた。この会を継続していくことが課題であり成果であった」と締めくくりに有意義な空気に包まれセミナーは終了した。



中央労福協 第10回加盟団体代表者会議

11月25日(金) 東京都・日本教育会館において、中央労福協第10回加盟団体代表者会議が106団体(会場:25、オンライン:68、委任状:13)の代議員が出席し開催された。

吉野会長から「海外と比較すると日本の食の安さは際立っている。背景には適正な労働者の賃金となっていないことが一因にあるのではないか。労福協の活動の中で重点項目は、①奨学金問題である、中間層に対する支援が



ない、更なる制度改善が必要であり、国内世論を盛り上げることが重要である、②労働者福祉関連では、10月に労協法が施行された、協同労働の可能性や格差・貧困対策として労働運動との連携により、時代に即した運動が重要である。今こそ労福協の出番であることを認識して、共に頑張ろう」との挨拶があった。

報告・議案では、第1号議案: 2022年度活動報告、第2号議案: 2022年度会計決算報告・2022年度収支差額処分(案)、第3号議案: 2022~2023年度活動方針の補強(案)、第4号議案: 2023年度会計予算(案)が提案され、全ての議案が満場一致で承認された。

なお、県労福協の間専務は、第1号議案の活動報告に関連して、「ろうふうくエール基金」からの、生活困窮者支援事業の相談員に対する、資格取得における祝い金に対して、職場の活力につながる取り組みであり今後も「継続強化を求める」との要望を込めた発言を行った。

県労福協は、「労福協の理念と2030年ビジョン」の具現化に向けた取り組みの強化と、ポストコロナ社会の運動を追求する中央労福協と連携して、引き続き労働者福祉運動を着実に前進させていくこととする。

謹賀新年

旧年中は格別のお引き立てを賜り
厚く御礼申し上げます
本年もご愛顧のほど
よろしくお願いいたします

令和五年



こくみん共済 coop
公式キャラクター
ピットくん



こくみん共済
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

新潟推進本部
(新潟県総合生活協同組合)

東部ブロック

第236回幹事会・

2022年度代表者会議報告

10月5日(水)、東部ブロック労福協第236回幹事会・2022年度代表者会議が長野県上田市上田東急REIホテルにおいて22名の参加で開催された。

幹事会では、岡田東部ブロック会長挨拶の後、①2023年度活動、②第57回定時総会関連の議案書(案)、について協議・確認した。



その後、代表者会議を開催し、岡田東部ブロック会長、長野県労福協中山理事長の挨拶の後、役員選考委員長の中山副会長から、2023年度役員選考状況の報告を受けた。

課題・提起では、中央労福協南部

事務局長から「コロナ禍における労福協活動について」と題して、①全国福祉キャンペーンの起源と変遷、②コロナ禍の日本の現状、③2022全国福祉強化キャンペーンの取り組みについての、提起があった。

各県報告においては、新型コロナウイルス感染症の状況下であっても、創意工夫して労福協活動の推進に向け活動が行われている実践報告があった。

新潟県労福協からは、①10月23日開催予定の、「ワーク&ライフフォーラムin柏崎」の取り組み、②11月20日開催予定の「給付型奨学金シンポジウム」の取り組み、③新潟ろうきん福祉財団の高校奨学金事業拡充に係る寄付の取り組みについて説明した。



第57回定期総会

「すべての働く人の幸せと

豊かさをめざして、連帯・協力で

安心・共生の福祉社会をつくります」

11月30日(水)茨城県「水戸京成ホテル」において48名が参加して東部ブロック第57回定期総会が開催された。

総会議長に、和田(茨城県労福協)

副会長が就任し、東部ブロック岡田会長、開催県内山会長の歓迎挨拶、中央労福協南部事務局長の挨拶を受けた。

その後、2022年度の活動報告並びに会計報告・会計監査報告、2023年度の活動方針・予算案が提案・承認された。

総会では、厳しい環境下において、労働者自主福祉運動の原点に立ち返り、中央労福協2030年ビジョンを踏まえ「すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協力で安心・共生の福祉社会をつくる」労福協理念の実現に向け、各労福協は、労働団体、福祉事業団体との連携強化をはかり、支え合い・助け合いを地域に根付かせる活動を進めることを、積極的に展開すること、また、3年間開催できなかった、東部ブロック第14期福祉リーダー塾の開催に向けて検討を続けることを確認した。



なお、総会終了後に「協同ネットワークいばらきの取り組み」と題して、寺山正史氏(茨城県農業協同組合中央会・常務理事、協同組合ネットいばらき・幹事長)から、協同組合原則による、協同組合間の協同について、実践活動を中心に講演された。

新潟県内においても、新潟県協同組合間提携推進協議会が設置され、県労福協は賛助団体として加盟しているが、県内の取り組みと比べ活動実態に雲泥の差のあることを痛感した。本当の意味での協同組合間連携の構築が求められていることを改めて学んだ。

国際交流

第5回韓国・日韓交流フォーラム
韓日交流の今と明日

11月28日(月)新潟日報メディアシップにおいて、第5回韓国・日韓交流フォーラムが約100名(会場・オンライン)の参加で開催された。

基調講演「国際情勢と韓日関係」李鍾元氏(早稲田大学大学院教授)、「日韓文化交流と公共外交」春木育美氏(聖学院大学教授)が行われた。

報告は、「韓国の魅力と若い視点から考える交流の可能性」について、新潟県立大学の学生から、両国の友好を深めるために文化交流の大切さが訴えられた。県立大の豊島夏美さんは、若い世代がドラマ音楽をきっかけに韓国に好感を持っていると報告。元徴用工問題など巡り両国の政治関係が冷え込む中、「政治や歴史問題を取り上げる報道だけに惑わされず、現地に赴いて

市民と関わるのが大切だ」と草の根交流の重要性を訴えた。県立大の韓国人留学生の河宗昊さんは、「政治が緊張関係にあっても、互いの文化をきっかけに市民のつながりが強まることを期待したい」と話した。

識者6人によるパネルディスカッションでは、両国の歴史認識をめぐる課題や関係改善への展望を語り合った。特に、若い世代の人的交流が、日韓関係の新たな友好の時代につながることを認識することのできたフォーラムであった。

在日本大韓民国国民団新潟県
地方本部「韓日親善交流会」

12月12日(月)、在日本大韓民国国民団新潟県地方本部主催の「韓日親善交流会」が新潟東映ホテルにおいて、国

などを迎え、95名が参加され盛大に開催された。

開会あいさつで鄭和仁団長が、「過日の韓国・梨泰院(イテウォン)の群衆事故に対するお見舞いと事故原因の究明の必要性、ワールドカップサッカーの日本と韓国の活躍が両国の融和につながることを希望する」旨の挨拶があった。

続いて、権相熙韓国総領事から「コロナ前では両国で1000万人の交流があった。民間交流が両国の健全な韓日関係に発展することを期待する」との挨拶を受けた。

来賓挨拶では、新潟県日韓親善協会片桐会長から「隣の国とは、仲良くすることが基本、戦争は反対」。また、西村ちなみ衆議院議員から「国会議員の交流が始まり、政府間レベルでの課題解決や友好・平和に向けて尽力したい」との挨拶があった。

交流会は、新潟市出身のシンガーソングライター「貴愛(キエ)」さんのライブを堪能した後、新型コロナウイルス感染症対策を講じての開催となり、参加者全員が、テーブル単位での交流を行い有意義な交流会となった。

2022年度
新潟県日口親善協会講演会

12月14日(水)新潟東映ホテルにおいて、「2022年度新潟県日口親善協会講演会」が会員36名の参加で開催された。

講演会は、篠田昭日口親善協会会長

の挨拶の後、間事務局長から2020年2月18日に開催した、新春セミナー以来の集会となったことの経過について説明がされた。

「激変する世界の中の日韓関係」と題して、ツェリツシエフ・イワン氏(新潟経営大学 経営観光学部学部長)から、なぜ、ロシアがウクライナに対して軍事作戦(戦争)が勃発したのか、グローバルな視点から「地政学」「経済」を分析して話された。とりわけ日韓の関係については、人の「マイクロワード」が重要であり、文化をとおして回復するシナリオを考えるべきとの講演であった。

懇親会は、牧野茂夫副会長の乾杯の発声で交流会を始め、西村ちなみ衆議院議員、打越さく良参議院議員から連帯の挨拶があり、久々に楽しい交流のひとつを過ごした。





高めよう労福協運動を！

4月から11月まで信濃川河川敷に広がる遊休地を活用した体験型農業を、多くの仲間と協同で行った。農業を通じて交流し、「農」の楽しさ、仲間との会話を通じた交流をめざし、一生懸命働く喜びや、いろいろな人たちとの出会いを楽しんだ。来年もぜひ「農」運動を継続したい。

2021年10月から地区労福協事務局長を受け、新潟県ライフサポートセンター

長岡地区

地区労福協からの たより



トセンターの運営に注力を注ぐ毎日だった。ライフサポートセンターの存在を県内に知らしめるため、各地区事務局長の皆さんをはじめ多くの役員、機関の皆様から協力いただいた。これからもよろしくお願いしたい。

ライフサポートセンターの活動以外とは？と振り返ると、まだまだ消化不良状態が続いている。「様々な考えや組織の枠を超えて、すべての働く人、生活する人の福祉の充実と生活向上をめざす」原点を常に思い、長岡地区で運動する大切さを痛感している。

労福協運動は、シニア時代にもうってつけの運動スタイルである。

シニアは、いかに余裕を持てるか！その余裕を社会にどう還元できるのか？そのために何をするのか？自分ができる範囲で、人生100年時代を元気に進むことが一番である。

長岡地区労福協は、来年2月に「ながおかワーク&ライフセミナー」を計画し、地区労福協構成団

体をはじめ、多くの仲間の皆さんと一緒に楽しいセミナーを行う予定である。

(長岡地区労福協・今井事務局長)

柏崎地区

フォーラムを開催

労働を中心とした福祉社会を

10月23日(日)「2022にいがたワーク&ライフフォーラムin柏崎」が柏崎市、新潟工科大学で開催され、午前は鎌田實氏の基調講演、午後は10のセッションから選択しての参加とした。

新型ウィルス感染対策を講じての開催で参加者の皆様に、ご不自由をかけたことと思う。

また、開催地元としては当日の天候も気にかかった。午後は風雨に見舞われ、ツアーコース参加者には、内容に一部変更もあったが、柏崎の強風の天候を経験できたということでお許し願いたい。

(筆者は、1月・2月の柏崎海岸暴風体験をお勧めする)

新潟ろうきん福祉財団、連合新潟等をはじめとする、多くの皆様のご指導とご協力の下に、成功裡に終了することができ感謝申し上げます。

なお、後日、地元新聞柏崎日報(11月14日)に記事が掲載された。

(柏崎地区労福協・渡辺事務局長)

上越地区

上越地区労福協は、10月より、妙高市斐太地区にある「あいあう食堂」の支援を開始した。上越市内の「フードバンク上越」と合わせ、妙高市でも『こどものみかた』としてお手伝いを広げている。

「あいあう食堂」は、妙高市南部地区を対象に子供食堂を開催したり、寄付して頂いた食品や日用品や古着等を妙高市在住のひとり親家庭に届けるフードシェアリングを中心に行動している。作業内容としては、毎月1回、土曜日の開催時に品物の仕分けや物品の運搬が主となるが、開催日前に準備する精米を担う事が大変喜ばれている。

しかしながら、豪雪地帯の土地柄から、冬期間での作業を考えると今後においては自前の精米機の導入が必要と考え検討中で、皆様のお力添えをお願いしたい。

(上越地区労福協・岩瀬事務局長)



新潟ろうきん福祉財団 「高校生に対する奨学金給付事業」

高校生の学びを後押し！採用人数を大幅に拡大!!

2022年1月以降、（一社）新潟県労働者福祉協議会が取り組んでいる高校奨学金給付事業拡充に向けた運動に賛同し、当財団にご寄付いただいた団体および個人の方に心よりお礼申し上げます。

今回のご寄付の状況を踏まえ、2023年度の高校奨学生募集の採用予定を上限100名（2022年度採用者：30名）に拡大するなど一部条件を変更します！

募集期間：2023年4月10日（月）から2023年5月10日（水）

採用人数：上限100名

奨学金額：月額1万円（3年間の奨学金給付総額36万円）

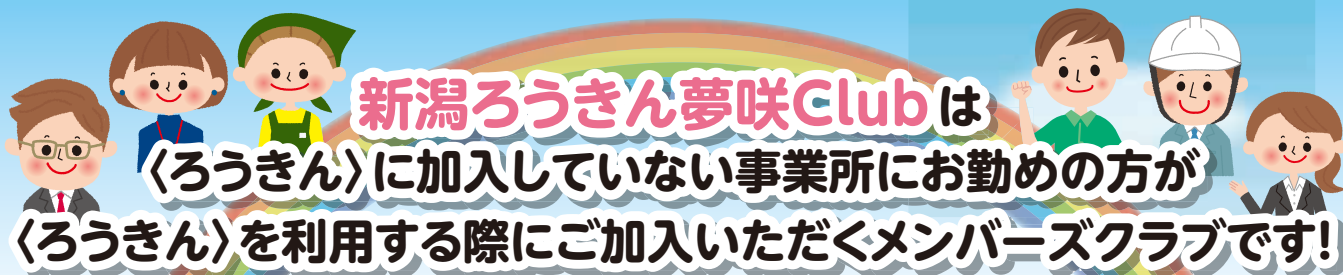
※返還義務はありません。

なお、具体的な2023年度高等学校奨学生（給付型奨学金）

募集は当財団のHPなどで2023年3月に案内します。

公益財団法人 新潟ろうきん福祉財団

URL <https://www.zaidan-hukushi.or.jp>



新潟ろうきん夢咲Clubは
〈ろうきん〉に加入していない事業所にお勤めの方が
〈ろうきん〉を利用する際にご加入いただくメンバーズクラブです！

ご入会

新潟ろうきんの県内26店舗で入会手続きができます。

加入申込書は新潟ろうきんの全店舗に備え付けてあります。※入会金や会費は必要ありません

ご加入 いただける方

新潟ろうきんとお取引がある、あるいはお取引を予定されている方で、以下のいずれかの加入条件を満たす15歳以上の方となります。

- 1 新潟県内に居住または勤務する勤労者の方など
- 2 将来、新潟県内に居住または勤務する予定のある方

おもな活動と 会員サービス

- 会報誌「夢咲Club通信」の発行
- 暮らしに役立つイベントなどの開催
- 安心の無料相談ネットワーク（弁護士無料法律相談、健康ダイヤルなど）

ご加入は最寄りのろうきん本支店窓口へ。お問い合わせは新潟ろうきん夢咲Clubまで。

新潟ろうきん夢咲Club

〒951-8113 新潟市中央区寄居町332番地38 新潟県労働金庫本店5階
 TEL 025-201-8765 FAX 025-201-8755
<https://www.n-yume.jp> **新潟ろうきん夢咲Club** 検索

調査・研究事業報告

連載／第4回

「ウイルス禍での労働」から何を活かすか
―「これからの社会」を考えるために―

公益社団法人新潟県自治研究センター

新型肺炎ウイルスの感染者が、日本において最初に確認されたのは2020年1月16日であり、あれから3年、新年を迎えた今も「第8波」のただ中にある。「この国を、守り抜く」と勇ましく、防疫予算増額はつかみ取りのように決めようとする一方で、物価高とウイルス禍で傷んだくらしや医療体制などへの支え方は本当に十分なもののなか、間もなく始まる通常国会での議論にも注目したい。

また、いわゆる「ウイズコロナ」「ポストコロナ」社会に向けた議論も起こり始めているが、その際に忘れてならないのは、この間の政府の対応や施策を検証し、そこから何を教訓として活かしていくかという姿勢であろう。今回は、それに関わる2つの論考を紹介していきたい。

【浮き彫りになったものとは】

まず、ウイルス禍が「貧富や正規・非正規、職業、デジタル・デバイド、

世代などの格差や差別、分断、対立といった社会のひずみを『見える』化した」との視点で、その要因に言及した論考が、「コロナ禍が社会につづけた課題」である。

同論文では、安倍政権以来のウイルス禍への対策について、①経済やオリンピック、中国への配慮などを優先した「後手後手の対応」、②突然の一斉休校や「アベノマスク」に象徴される「場当たりの対応」、③「もともと薄くなっていたセーフティネット」、④「弱い立場の人ほどしわ寄せを受ける仕組み」という点を特徴として挙げている。

そして、これらはいずれも、ウイルス禍によって突然起きた問題ではなく、「雇用の非正規化、格差・貧困の進展、小さ過ぎて脆弱な行政など、この間の新自由主義的構造改革によって、私たちの社会自体の危機への対応の限界値が非常に低くなっているところに襲いかかった」ものであると指摘している。

たしかに、たとえば医療サービスひとつとっても、ある日突然不十分になったわけではないことは、医師・看護師不足とそれがもたらす過酷な労働環境が常態化している本県において、より理解できることである。「かかりつけ医」の存在や医師との良質なコミュニケーションが、高齢者のワクチン接種率と関連性がある点などにも触れられており、地域医療体制とは「平時」から整備されるべきものであることをあらためて示している。

「感染症は不平等のリトマス試験紙」（ジョン・ゼルナー氏）という言葉もある。災害や感染症などに対し、脆弱な体制がなぜつくられてしまったのか、まさに「政治」が問い直されているのである。

【新たな社会構造を模索する】

もうひとつは、今後の新たな社会構造として「地球規模での生存優先への転換」を展望し、近年の「グリーン・リカバリー」や日本の環境対策の歴史などを紹介した、「ウイズコロナと新たな社会構造―世界が求める生存優先の地球環境づくりへの挑戦を―」である。

新たな社会構造として求められるのは、けっしてウイルス禍以前の社会の単純な復活ではないだろう。そこで同論文では、感染が続く現在も、将来世界的な感染症が起きたときでも、「共通して対応可能な社会が切望されてい

る」として、「産業優位」の政治姿勢を改めることが述べられている。特に、環境保護を支持する世論にも支えられながら欧州で進められている、経済のあらゆる分野を対象とした「グリーン・リカバリー」への財政支出と政策の重点化を例に、「日本でも単なる地球温暖化対策ではなく、新たな社会構築の機会と捉えるべき」としている。

短い論稿のため、社会構造そのものの分析に踏み込んではいないが、今後のあり方を考えるうえで、私たちにひとつの問題提起をしたものである。

【デジタル化社会の議論とともに】

現在、「近未来の労働環境」や「働き方改革」を柱とした、今年度の研究報告書が作成の最終段階に入っている。近年は「ポストコロナ」の社会像として、デジタル化の推進なども注目されているが、そのなかで、働き方はどうなっていくのか、持続的で安心な社会をどう築いていけるのかなど、より良い議論となるよう、私どもも研究・提言をつづけていきたいと考えている。

貴重な紙面を頂戴し、今年度も報告書の内容紹介の機会を与えていただいたことに心から感謝申し上げ、引き続きのご指導ご協力をお願いして連載のむすびとしたい。

(文責・新潟県自治研究センター

齋藤 喜和)

今後の日程

1月	5日 (木)	2023年新潟県労福協新春の集い (ANAクラウンプラザホテル新潟)
	6日 (金)	上越地区労福協新春交換会 (上越市)
	11日 (水)	新潟グラウンズ(死ぬな)意見交換会
	12日 (木)	県央地区労福協賀詞交換会 (三条市)
	13日 (金)	糸魚川地区労福協新春の集い (糸魚川市ヒスイ王国館) 自治労新潟県本部「2023年新春団結旗 開き」(新潟東映ホテル)
	14日 (土)	全港湾新潟支部新年旗開き (ANAクラウンプラザホテル新潟)
	16日 (月)	女性財団つながりサポート第3回連携会議 (Web)
	17日 (火)	新潟県PS出雲崎町第2回支援調整会議 第3回プラットフォーム検討会
	18日 (水)	中央労福協第27回Web学習会(講師:全国 こども食堂支援センター・湯浅誠理事長)
	21日 (土)	ソレイユ三条事務局会議 (三条市)
	23日 (月)	新潟県PS弥彦村第2回支援調整会議・第 3回プラットフォーム検討会
	24日 (火)	中央労福協第3回生活・就労支援連絡会議 (Web)
	26日 (木)	新潟市PS第10回支援調整会議 (勤労福祉会館) 新潟地区労福協新春の集い (新潟東映ホテル)
	30日 (月)	にいがた協同ネット運営委員会 (Web)
2月	2日 (木)	新潟県PS田上町第2回支援調整会議・第 3回プラットフォーム検討会 (田上町)
	6日 (月)	県ライフサポートセンター相談員検証会 議(連合中越地協事務所)
	9日 (木)	新潟県消費者安全確保地域協議会 (Web)
	10日 (金)	糸魚川地区労福協ワーク&ライフセミ ナー(糸魚川市ヒスイ王国館) 柏崎地区労福協賀詞交歓会 (柏崎市ザ・シャンカラ)
	13日 (月)	女性財団第1回人材育成セミナー (Web) 新潟県PS刈羽村第2回支援調整会議・第 3回プラットフォーム検討会 (刈羽村)
	16日 (木)	消費生活ネットワーク第6回理事会 (Web)
	22日 (水)	新潟市PS第11回支援調整会議 (勤労福祉会館) 新潟県PS湯沢町第2回支援調整会議・第 3回プラットフォーム検討会 (湯沢町)
	23日 (木・祝)	長岡地区労福協ワーク&ライフセミナー (HニューオータニNCホール)
	24日 (金)	新潟地区労福協ワーク&ライフセミナー (ANAクラウンプラザホテル新潟)
	27日 (月)	女性財団2月度勉強会 (Web)
3月	13日 (月)	女性財団第2回人材育成セミナー (Web)
	14日 (火)	東部ブロック第238回幹事会 (千葉市)
	15日 (水)	県労福協第141回理事会 (勤労福祉会館)
	23日 (木)	新潟市PS第12回支援調整会議 (勤労福祉会館)

編集後記

❖ 2022年の世相漢字は、「戦」で決まった。毎年清水寺で発表される「今年の漢字」である。ロシアのウクライナ侵攻による「戦」争の恐ろしさを目の当たりにした年であった。「戦争は悪」である。一日も早い停戦を求める❖ 円安や物価高による生活上での「戦」い、スポーツでの熱「戦」・挑「戦」も注目された。とりわけ、「プラーボー」が年末の日本列島を元気にしてくれた。ワールドカップ日本代表の皆さん、関係者の皆さんに敬意を表し

たい❖ 「プラーボー」の語源は、諸説あるが、ラテン語の「野蛮な」と「邪悪な」の単語が組み合わさったものと言われている。16世紀ごろは、戦士や傭兵を意味していたようだが、時代の変遷で、能力や優れた技術を指すようになり、称賛にまで変化した。悪から善への転換が素晴らしい❖ 国民への説明が全くない中で、訳のわからないミサイル購入など防衛省の軍事予算がGDP比2%を超える勢いで独り歩きしている。自民党内における茶番劇を演出して、2024年度以降税金から予算を捻出するとしている。笑えないこと

は、建設国債から自衛隊艦船や防衛装備品の予算とするとの来年度予算での政府方針である❖ 建設国債は、老朽化した橋などの改修に利用すべきもので、紛れもなく国債は借金である。逆立ちして考えても、自衛隊の装備品が建設国債で対応することは断じて認められない。この国は、憲法9条をないがしろにして、軍拡路線を邁進する国にいつからなったのだろうか❖ 2023年が見える未来を構築するスタートの年となるよう満身の願いを込めて、2022年のペン収めとする。

(新光町のカンペイ)

